

# 助成年度：平成 12 年度

[所属] 兵庫県立人と自然の博物館 自然環境評価研究部  
[役職] 部長  
[氏名] 中西 明德 (他計 8 名)

[課題]

## 熱帯原生林における昆虫－植物共生系の解明と多様性保全に関する 基礎研究

[内容]

マレーシア国サバ州の、タビン野生生物保護区とマリアウベイスン自然保護区でインベントリー調査を行った。調査結果の概要はつぎの通りである。

チョウ類－タビン野生生物保護区から今回 9 属、36 種のチョウを新たに確認でき、合計 135 属、278 種のチョウが記録された。最終的には 400 種に達すると思われる。ガ類－マリアウベイスンで、スカシバガ類の合成性フェロモンを用いて野外調査を行い、4 種のスカシバガ科の雄成虫を採集出来た。そのうち 1 種は *Ichneum enoptera* の新種と判断され、また新属新種と考えられる種が 1 種あった。アリ類－熱帯林におけるアリ類の生物多様性評価において簡便に調査が行え、統計的に比較可能なサンプリング方法の確立に取り組み、有効な方法を見出した。ハエ類－スイーピング法とマレーゼトラップにより微小な種を含むハエ類昆虫の標本を多数収集することができた。これらの系統分類学的研究は、双翅目群それぞれの専門研究者に部分的に依頼して行われるが、多数の新種が含まれていると期待されている。クモ類－マリアウベイスンの低地熱帯雨林の下層を中心に採集を行った。採集されたクモはコガネグモ科 32 種(48 個体)をはじめ 11 科、75 種(102 個体)である。また、1999 年 5 月に発見していた社会性ユウレイグモの生態観察も行った。陸生貝類：マリアウベイスンで貝類を探索し、2 種の巻貝を見出し生態を調査した。維管束植物：マリアウベイスンの *Agathis* 林の樹木の成長（年輪形成）の経年調査が出来るように 14 本の樹木を特定し、各々に No.1～No.14 のタックルを付け、各個から材ブロックを採取しアルコール固定標本とした。蘚苔類：マリアウベイスンで、蘚苔類相の調査をおこない、300 点の標本を得た。セン類は 2 新種を含む 42 属 86 種を明らかにできた。